

父親向け子育て支援事業

事業主体	名称：特定非営利活動法人まんなか 住所：岡山市中区中島 37-1 A102
事業実施場所	旧岡山市立旭竜幼稚園 岡山県岡山市中区中島 50-1

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など) ※実績報告書(様式6)②目的、③概要・方法

【母親の子育て負担軽減】普段子育て広場や地域の遊び場に来にくいお父さんも「パパが来てね」を強調し、参加しやすい広場を開催する。お父さんと子どもが遊びに来れば、お母さんは家で家事に専念できたり、リフレッシュできる。広場に設置する新聞や雑誌を父親向けにし、父親がくつろげるスペースを確保して、居やすい雰囲気づくりを工夫する。

【父親の繋がり作り】父親も子育て広場とつながる事で、親同士の子育て、家事、仕事との両立情報や遊び場情報を共有できる。子育てをされていて疑問が湧いた時に、SNS などのオンラインではなく、顔が見える支援者や、知り合いに尋ねることができるようになる。

【育休取得の理解と推進】子育て世帯以外の方に向けて、父親育児についての理解を得て、働きやすさや、よりよい子育て環境づくりに繋げる。子育て支援者は父親支援をより理解し、広場の父親参加を促す役割を持ち、企業については、全体で子育ての理解を得て、働きやすさや育休取得をより取りやすくする。また、岡山市内、県内で父親の子育て支援に力を入れている団体が少ないため、当団体が率先していきたいと考える。

～事業実施内容～

<第1回>

- | | |
|--------|--|
| ① 事業名 | パパと子どもが主役の子育て広場 |
| ② 参加人数 | 広場参加者合計 22 人
講座参加者 4 家族(大人 6 名、子ども 6 名) |
| ③ 日時 | 2024 年 9 月 29 日(日)10:00～15:00/講座 10:00～12:00 |
| ④ 場所 | 旧岡山市旭竜幼稚園 岡山市中区中島 50-1 |
| ⑤ 内容 | 講座：木工ワークショップ スツール作り
講師：木育インストラクター 木林靖幸
木のスツールを制作。子どもも一緒に手伝ったり、近くでスタッフが見守りをしている中、お父さんがスツールを作った。また、隣の部屋では子どもスタッフが子どもカフェを運営開催。子どもたちだけで、カフェ運営ができた。 |



- ⑥ 活動の成果等 参加者の声として、「家ではなかなかできない作業木を切る、釘を打つなどの作業が子どもたちと出来てよかった。また参加したい。」というのがあった。
子どもカフェは、子どもたちだけで、成し遂げる事ができ、自信につながった。

<第2回>

- ① 事業名 パパと子どもが主役の子育て広場
② 参加人数 広場参加合計 43 人
講座参加者 5 家族(大人9人、子ども8人)
③ 日時 2024年11月10日(日)10:00～15:00
講座：10:00～12:00
④ 場所 旧岡山市旭竜幼稚園 岡山市中区中島 50-1
⑤ 内容 講座：カレー作りと専門職をお話会
講師：はれのまほけんしつ
助産師や理学療法士を迎え、お父さんたちだけでカレーを作り、出来上がったカレーを遊んで待っていた子どもや妻に振る舞った。カレー作りの途中で、専門家とお父さん同士の繋がり作りを目的に家庭や仕事に関する座談会を行なう。前回同様、子どもカフェを実施。



- ⑥ 活動の成果等 お父さんたちはあまり話をしないだろうから、どうやって話を引き出そうと、スゴロクをつくり、出た目の質問に答えて貰うように工夫していたが、スゴロクの質問も使わずに、お父さんたちだけで話が盛り上がっていた。
私たちが思っていた以上に、お父さんたちも話がしたい、家庭の事を考え、仕事と家庭を両立したいと考えている事がわかった。
職場で子どもの相談などをする機会も少なく、コミュニティが必要だと感じられる会だった。

<第3回>

- ① 事業名 パパと子どもが主役の子育て広場
② 参加人数 広場参加合計 22 人
講座参加者 4 家族(大人8人、子ども9人)
③ 日時 2024年12月22日(日)10:00～15:00

講座：10:00～11:00

- ④ 場 所
⑤ 内 容

旧岡山市旭竜幼稚園 岡山市中区中島 50-1

講座：親子でボール遊び

講師：Grانseed(サッカークラブ)

サッカー教室のコーチに来ていただき、室内で出来るボール遊びワークショップを行ないました。クリスマスも近いことから、お父さんへのクリスマスプレゼントとして、タンブラーづくりをしました。子どもカフェを実施。



- ⑥ 活動の成果等 普段、子たちを相手にサッカー教室をしている方の子どもたちへの声かけ、簡単な遊びから少しずつ難しくなっていくようなところは、お父さんが子どもと遊ぶ際の参考になる。子どもとの接し方、遊び方のヒントを持って帰ってもらえた。

<第4回>

- ① 事業名
② 参加人数
③ 日時
④ 場所
⑤ 内容

父親育児支援講座

子育て支援者 10名 子ども4名

2024年11月15日(木)

旧岡山市旭竜幼稚園 岡山市中区中島 50-1

父親向けの子育て支援講座を新座子育てネットワークを講師とし、埼玉県新座市の講師とzoomをつなぎオンラインで講座を実施した。当日参加出来なかった方に向け期間限定でアーカイブ動画を配信した。

共働き家庭の増加や都市化による子育て環境の変化、昨今の介護・育児休業法の改正などにみられる社会的な変化をふまえ、子育てしやすい環境づくりには、父親の育児参画が欠かせないということを学ぶ。加え、子育て支援も母親に偏ったものではなく、父親も支援の対象者として、考えていくための手法や考え方を学ぶ。

現地参加の方は、講座後に昼食をとりながら交流会を行ない、子育ての情報交換を行なった。オンライン開催にあたり、機材などの運営、アーカイブ動画編集の協力を(株)ほいらくに依頼。



- ⑥ 活動の成果等 今では、父親が育児に参加して当たり前となっているが、高度成長期に専業主婦を経験した母親にとっては、衝撃だったとの感想を頂いた。今まで、子育て支援といえば、母親がターゲットになりがちだったが、父親にとっても心地の良い空間づくりや、父親向け講座を集客する際のチラシの文言など、気を付けるポイントが学べた。新座子育てネットワークの坂本さんたちは、20年来、父親支援の先進国であるカナダの団体と協働している。
- データをもとに説明してくれ、今後の父親支援の参考になった。

<第5回>

- ① 事業名 父親育児支援講座
- ② 参加人数 1名
- ③ 日時 12月12日（打ち合わせ）
- ④ 場所 打診企業本社、オンライン
- ⑤ 内容 企業の担当者向けに育児休業制度について社会保険労務士の方に説明していただいた動画を視聴してもらった。
- 父親の育児参加促進のためには、企業の理解と協力が欠かせない。経営者層は昭和の父親は仕事、母親は専業主婦して家事育児を担うという体験の名残で、夫婦共働きで子育てする大変さを理解しにくい状況もある。制度や社会的背景を理解し、若い子育て世代が育児休業を取得しやすい雰囲気を熟成するきっかけにする。

- ⑥ 活動の成果等 社内研修として、一般社員にも聞いてもらおうと計画していたが、企業さんの日程調整がつかず、講座の開催は3月以降になった。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

父親にももっと支援が必要だと感じられる取り組みとなりました。お父さんも相談したいが会社では不妊治療や子どもを持たない夫婦もあり、価値観が多様化する中、相談するのに気を使う、誰に相談していいかわからない、などの声があがっています。今回のコミュニティ作りで、子育てに関する情報共有や、子育ての大変さを共有することができ、お父さんの精神的負担の軽減につながったのではと考えています。支援者にとっても、新たな考えが多く、今後の父親支援が加速するきっかけとして、支援されるお父さん、制度に取り組む企業、両者の意見を聞ける場になり、良い取り組みになりました。

○今後の課題・展開

共働き世帯が専業主婦世帯の2倍以上にもなっているが、家事育児は母親のみが担う家庭もまだ多く存在しており、普段の広場でもお母さん達の愚痴を聞くこともあります。お父さん達の家事育児に対する意識は高まってはいるが、具体的なスキルが乏しいため、もどかしい思いを抱えていると感じました。今まで、広場や育児講座に足を運びにくかったお父さんにも気軽に参加してもらえるような仕掛けをすることが課題となります。

お父さん向けの子育て講座とは別に、お父さんたちが子育ての話が出来る座談会を定期開催して

いきたいです。今年度の事業を実施し、少子化対策のためにも必要性があると感じています。また、企業に対しての取り組みを増やし、収益化し委託終了後もこの活動を存続させ、その収益を元に講座や座談会を安価な値段で気軽に参加出来る居場所づくりを目指していきます。

○まとめ

法律も改正され、父親の育児家事参加に対する支援が拡充されていこうとしています。送り迎えや参観日での父親の姿は日常的にみられるようになっているのは、お父さん達も子どもの成長を母親と同じ目線で見守りたいという意識の表れだと思います。

これまで家事育児を担い、さらに仕事も始めた母親達は疲弊し、子育ての楽しさを感じることもできずにいた現状を打破するのは、父親の家事育児参加、社会的なサポート体制の拡充です。

今回、この事業で学び、実践した感想は、父親支援の必要性と、母親の意識も変えていく必要があるということです。自分は料理ができないからお母さんに任せているお父さんも、本当は料理をして家族に食べさせてあげたいと考えていて、でも、行動に移せないでいた、という場面で、母親はその意思を尊重し、任せてみるということに挑戦しなければ次のステップには踏み出せないということ。

夫婦間のコミュニケーションのきっかけとして、私たちの開催した広場は大きな役割を担っています。

父親の産後うつも母親と同率の10%程度という状況で、今まで支援の対象から外れていたけど仕事も家事育児も頑張っているお父さんをこれからもっとサポートしていきます。